

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100860		
法人名	株式会社MICOTO		
事業所名	グループホーム雫音1Fユニット		
所在地	鳥根県松江市津田町313番地		
自己評価作成日	令和6年2月5日	評価結果市町村受理日	令和6年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	鳥根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和6年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちはグループホーム雫音の介護理念にある“艶のある豊かな環境で、一人ひとりの価値観を尊重し、今と共に生き、これからの出番のある暮らしと共に歩みます”を掲げ、人として忘れてはならない『共生』をヒントに、子供からお年寄りまでの多世代、病気・障害・貧困といったハンディを背負う人たち、それとは無縁の人たちが互いに手を取り合い、日常的に関わり合いながら、暮らしの中で共存・共生する社会を作っていきたい。そして、関わる人同士が、多様性を尊重しながら、その個性と笑顔で繋がりを、輝く街づくりを目指すこととし、その更なる一歩として地域・他の参水グループ会社(如水舎・結水織)と共に構想を掲げ共生社会の実現に向けての取り組みの為、地域や関係者の皆様と共に魅力ある未来づくりを目指していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和3年10月に開設した新しい事業所である。法人の理念のもと一人ひとりの価値観を尊重したケアを行い、地域に根ざした事業所となるよう努力している。コロナの五類移行後、花見ドライブや近所の川べり散歩など行えるようになり、運営推進会議も対面での開催が行えるようになってきた。家族や地域の方の活発な意見交換の場となり、運営に生かしている。毎月利用者ごとに写真付きお便りを発行し、家族から「様子がよくわかる」と喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践につながる様にしている。しかし、スタッフの中には事業理念は知っているが理解が難しいという意見もあった為、再度、事業理念について研修会を開催し周知したい。	職員は入社時に社長から直接理念について話を聞く場がある。日々のケアの中では、利用者中心のケアになるよう努めており、理念の具体化につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナと言う事もあり、人と人との繋がりが殆ど無い状況であったが、回覧板や運営推進会議を活用し少しでも施設内部を知って頂く様に努めた。また、今後は行事開催時に地域の方をご案内し交流を深めたい。	回覧板や運営推進会議を活用して、事業所を知ってもらうよう努めている。現場所は、医院や介護事業所のあった場所で近隣の人に認知されているが、新しい事業所であることを周知したいと管理者は考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にご高齢の方も多く、非常にグループホームへの関心はあるのだと知った。また、ご自身が家族の介護を行ったなど等と認知症の方への理解はあるので、研修会を開催し情報交換を行いたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方が認知症ご利用者への理解があり、何かあった時は、お互い様の意見を毎回頂いている。今後も皆様のご意見を真摯に受け止めサービス向上に活かしたい。	今年度より運営推進会議も対面での会議ができるようになり、家族や地域の人から積極的に意見をもらい改善につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じての連携や様々な手続きを通しての連携は出来ている。出来事があった際などは必ず伝え協力関係を築けていると思う。	運営推進会議や日頃の出来事(コロナ感染、転倒事故)などを通して連絡・報告・相談をする中で、自治体との連携や協力関係作りはできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	積極的に取り組んでいる。日頃のケアの話し合いの中で魔のロック当てはまっていないかや身体拘束に当たるかもしれないと立ち止まって考えることが出来ている。	毎月のユニット会議や日々の業務の中で、身体拘束をしないケアについて話し合い、研修を行っている。特にスピーチロックについて気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会での話し合いや虐待の芽チェックリストを活用し、話し合いに繋げている。また、虐待に繋がりがちな事案の提供や日常的に気軽に相談できる雰囲気作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ全体に場を設けての後見人制度の説明等は出来ていない。今後理解を深める為にも資料や研修等を行い学ぶ様にしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	きちんと伝えているが、いるつもりになっていないか確認しなければならない。また、日頃から話しやすい関係性や担当者会議の場面などで契約内容についての疑問点を尋ねることも必要である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で発信している。会議に参加されていないご家族には、今後は会議後の記録を配布するようにする。	家族から運営推進会議の中で、面会、外出、外泊の希望が出され、面会は一階スペースで、また家族の協力による外出ができるようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会で意見を伝えたり、自己評価表や半年に一回必ず個人面談を行っている。管理者は常にスタッフの表情や声のトーンや行動に気を配っている。今後はエルダー制度を活用してみたい。	管理者は職員の意見をよく聞くようにしている。職員の意見で、日誌の記入欄の位置の変更や調理器具の購入など行い業務改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表を活用している。目標を決めてもらう際は、大きな目標と具体的な目の前の目標を決めるようにしやりがいに繋がる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	忙しい日々の中、法人内外での研修を受ける機会が作れていない。勤務状況も過酷な中、無理を言えない。なので、日々の会議や相談された際などにコーチングを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人が他事業所も設置している為、同業者や管理者間での会議や勉強会を実施していく予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入所されたばかりは特に声を掛けたり、状況観察を行うようにしている。また、初めての暮らしで困っておられることや不安が多いと思うので思いに寄り添う様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者同様、入所当初はご家族との連絡を細目に取りらせて頂くようにしている。お仕事等でご多忙でもあり、メールを活用して連絡を取り合うことも実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入所前の事前調査や情報収集、入所されてからの対応もスタッフと連携を図りながら実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ることをスタッフと一緒にを行い、今までの暮らしの中でされていた事を続けられるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ時間を作って頂き、面会に来所頂くことや受診の介助、電話での対応などをご協力頂ける様連携を図っている。入所される前に共に支え合う関係性であることを事前にお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や病院をご利用頂き、また、ご家族にもご協力をお願いしている。今後は面会も増やしコロナで中々会えていなかった方やご親戚の方等、関係性が途切れない様にしたい。	ご家族の協力で、馴染みの美容院の利用や、かかりつけ医の受診後にドライブなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通して、スタッフが間に入りご利用者同士との橋渡しを行っている。手作業など何かを一緒に行って頂くことで互いの協力関係が出来ていると感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されるとご家族との連絡を取ったりすることは殆どないが、相談があれば応じている。また、他の事業所や情報機関を紹介したりなどを実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当スタッフとチームで連携を図り実施している。殆どの方が自宅に行きたいとご希望がある為、実現したい。また、各担当スタッフと連携し、ご本人の出来ることを発見したい。	「人の役に立ちたい」「お手伝いしたい」という方の希望を聞き、洗濯物干しや掃除、食材の皮むきなどしてもらっている。「家に帰りたい」という利用者の声に耳を傾け、必要時家族と電話で話をしてもらったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の体調や状況の変化で殆どの方が難しくなっているが、一つでも以前されていた事が実現できる様にしたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らし方が施設での暮らしになってしまっている。軽体操や日常生活のリハビリ、スタッフが手を出し過ぎないこと等先回りせず、遠くから見守ることも必要な場合や見極めをスタッフ間で話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人、その人で拾い上げきれないニーズがある。柔軟に対応出来る様な幅を持たせたプラン内容にしているが、今後は現状に即した介護計画を作成したい為、職員体制の見直しを行いたい。	利用者、家族のニーズにあわせ、具体的な介護計画にしている。目標を達成するために利用者のすること、職員がすることを具体的に記している。担当者がモニタリングしチームで話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の活用がうまくできていない。ご本人の思いではなく出来事記録になっている為、今後は工夫が必要。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフは常に柔軟に対応出来る方法を探している。また、必要時には訪看や訪リハとの連携を視野に入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者も一つの地域資源と捉えることが良いのか、例えばご利用者間での会話の中でその人の暮らしや性格が見えることもある。ご利用者間だからこそ見えること。ご利用者も一人の資源である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで構築された関係を出来るだけ続けて頂けるようにしている。ご本人、ご家族の希望に応じながら対応出来ている。	利用者、家族の希望に沿ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。協力医の訪問診療を受けている利用者も多く、協力医とはいつでも相談できる体制にあり、緊急時の連携も適切にできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携を図り実施できている。主治医以外での受診も紹介状と介護記録を参照にて適切に受診が出来ている。また、往診、受診対応は介護スタッフが付添う為、介護スタッフより看護師、主治医への情報提供も実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	他スタッフと連携を図り、出来ている。一人だけが行うという状況にはしていないが、対応が偏ってしまっている現状がある為、改善が必要。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時での医療連携での所でご説明をさせて頂くが、必ず、今のお気持ちと今後のお気持ちの変化についてや、状態に応じた他施設のご案内等もしている。見通しについて早い段階から説明を、今後同様実施していく。必要時は他施設のご案内なども引き続き実施していく。	入居時に重度化や終末期の対応について話をしている。そして重度化した場合早い段階から見通しや事業所でできることを説明し、本人、ご家族の思いを尊重して希望に沿った対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師と連携を図っている。また、今後も施設に設置してあるAEDの研修なども定期的の実施したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方たちも高齢化であり、自分たちの身の上を心配されている。地域とお互いに助け合える体制作りを見直す必要がある。BCPの活用やスタッフへの周知が出来ていない。	火災を想定した訓練をしている。一階玄関、または裏の駐車場に一次避難することになっている。職員一人ひとりが災害時の行動ができるように引き続き訓練や地域の協力づくりをしていく必要があると施設長は考えている。	職員一人ひとりが災害時の行動ができるよう引き続きの訓練実施やマニュアル作り、地域の協力づくりに努めること期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保や人権を尊重した声掛けも出来ている。しかし、何がきっかけになり、また、言っても大丈夫の線引きが各スタッフで違うことも否めない為、尊厳のある声掛けやプライバシー保護を守る声掛けとは何かを研修を通して学びたい	入室時はノックをする、排泄介助時は羞恥心に配慮しすぐドアを閉めるなど気を付けている。同性介助を希望する人には希望に沿った介助をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	殆どの場面でご本人に選択して頂くように心がけている。また、ノンバーバルコミュニケーションも大切に、ちょっとしたしぐさなど見落とさない様にしていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人、ご家族より聞き取った情報やご本人の行動から見えてくるルーティーンなどをスタッフ間で情報共有しその方のペースを大切にしているが細かい所の可視化ができていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	実施できている。以前の暮らしの中で身に付けておられた物は変わらずにご利用頂き、髪を染めたりパーマも出来る様にしている。髪		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けやお皿を並べて頂くなどし、一緒に出来ることは行って頂いている。また、下膳と一緒にいたりご利用者のペースに合わせ、個々に出来ることは積極的にお勧めしている。	利用者と一緒に味付けや、盛り付け、下膳などし、時々に行事食を作り、食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施できている。また、お茶を好まない方には、飲んで頂ける物を提供している。食べる量もチームで話し合い、体重の増減など確認をしながら行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは実施できている。また、必要な方は歯間ブラシやマウスウォッシュを実施している。また、協力歯科より口腔内の研修会を実施して貰い、口腔内と認知症の関係性を学んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実施できている。定時誘導と必要時、又は訴えがあった際は随時対応出来ている。自立支援に向けている。	日中はトイレでの排泄ができるよう定時誘導と随時対応をして排泄の自立に向け支援をしている。夜間はポータブルトイレを使用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促すことや軽体操を行っている。便秘時には主治医や看護師と連携を図り個々に合う便秘薬の処方や細かい調整が実施出来ている。日々の体調で変動もありますが、スタッフ間でも連携を図り対応出来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時の洋服を一緒に選んだり、体調や状況で柔軟に対応出来ている。また、中にはご自分の入浴の曜日を決めておられる方にはその様に対応している。	本人の体調や希望に応じて入浴日や時間を柔軟に変更して対応している。自分で曜日を決めていく人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースに合わせて対応出来ている。また、体調を考慮し促す際もあるがご本人の意思を尊重しスタッフも日々試行錯誤しながら、また、連携を図りながら休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、看護師、介護スタッフと連携を図りチームで把握するよう努めている。また、頓服や薬の変更時は口頭と経過記録シートに記録し把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事を開催しいつもと違う雰囲気や場面を過ごして頂いている。今後は嗜好調査を実施し食の楽しみに繋げていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	遠くへの支援は行えていないが、近場のドライブや施設周辺の散歩は実施できた。また、ご家族のご協力のもと松江市周辺をドライブし、自宅を車窓から見て帰所されるなど全員ではないが個々の状況に合った対応が少しは出来たと思う。	近隣の川沿いを散歩し、鳥や植物を見て季節の変化を感じたり、花見ドライブに出かけることができている。家族の協力で外出される人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はご家族が管理しておられ基本的には持参頂いていない。しかし、外出時などにはお小遣いとして範囲内で自由に購入頂ける場面を作りたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末には年賀状を殆どの方が手書きで文字を書かれたり、日常的に手紙を書いておられるご利用者もおられる。携帯電話をご持参の方はもちろん、日中は自由に電話を掛けて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	二階は窓も小さく、外の光が入りにくいこともあるが、ステンドグラスを利用しわずかな光が丁度良く入る様に工夫されている。浴室は車椅子の方が移動出来る様に広めの設定ではあるが、歩ける方も安心してご利用して頂いている。	玄関1階は面談スペースになっていて、屏風や壁飾りで落ち着いた空間になっている。食堂のある空間は明るく、壁には季節を感じる作品や日めくりカレンダーが飾ってある。2階廊下の途中にはソファがあり、くつろぎのスペースになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自由に過ごして頂いているが、自席に他の方が座っておられことがお好きでない方など、様々な考えがおありな為、スタッフが気遣いも行うが、自由に座れるソファを準備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には出来るだけ以前ご使用中の物を持参して頂き、少しでも安心して過ごせる様にと、居室に戻って来た際の目印にもなり自然な形でお話しを進めることも出来る。	本人が使いやすいように机やなじみの家具などが配置してある。携帯電話を持参し、使いやすいように置いてある方や椅子に座って洗面できるような椅子が置いてある人もあり、安全面や使いやすさを工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室でご本人が安全に過ごせる様、担当スタッフが中心となり環境を整備している。また、福祉用具などご本人に必要な物が提供できる様にしている。		